

通し番号	3763
------	------

分類番号	12-34-15-06
------	-------------

「はるみ」の果実階級と果実肥大、品質の関係	
[要約] 「はるみ」の良食味で安定した品質を確保でき階級は、2L、3L以上と考えられ、着果量が多いと、L,M中心となり、これらの果実は高酸の傾向であった。階級別の果実の大きさは、7月27日時点でS,Mと2L,3L以上には明確な差があるが、L、2L間では、ほぼ差が見られない。	
農業総合研究所・根府川試験場	連絡先 0465-29-0506

#### [背景・ねらい]

有望な中晩性カンキツとして、「不知火」、「はるみ」が注目され、全国的に栽培目面積が増加している。本課題では、県内に普及を図っている「はるみ」の特性を明かにし、栽培方法を確立させるため、果実の階級別の肥大とその品質について調査する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 階級別の屈折計示度は、M(横径:55mm以上61mm未満)、L(横径:61mm以上67mm未満)で高いものの、クエン酸含量も高い傾向られた。良食味で安定した品質を確保できるのは、2L(横径:69mm以上73mm未満)、3L以上(横径:73mm以上)と考えられた。
- 2 着果量が多いと、L,M級中心となり、これらの果実は高酸の傾向であった。
- 3 階級別の果実の大きさは、7月27日時点でS,Mと2L,3Lには明確な差があるが、L、2Lまでは、ほとんど差がない。いずれの区も肥大が12月まで続いた。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 階級別の肥大及び、摘果基準については、気象条件を加味する必要があることから、数年間データを蓄積する必要がある。
- 2 着果が多い樹で高酸になる傾向が強いことから、早期摘果または摘蕾を含めた栽培方法を検討する必要がある。

[具体的なデータ]

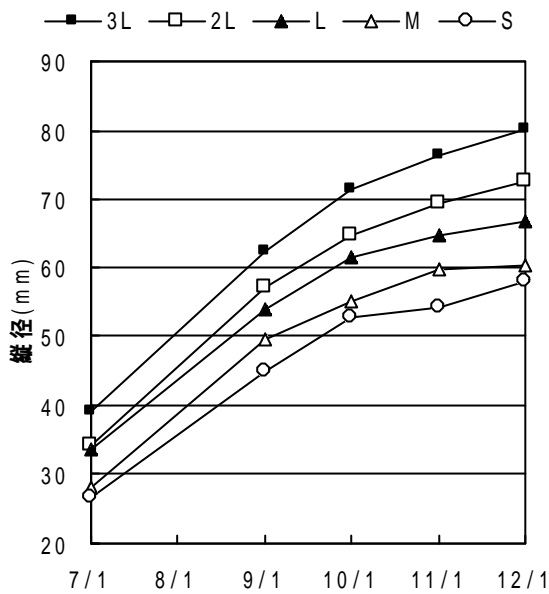


図1 はるみの果実縦径の推移と収穫時果実階級の関係

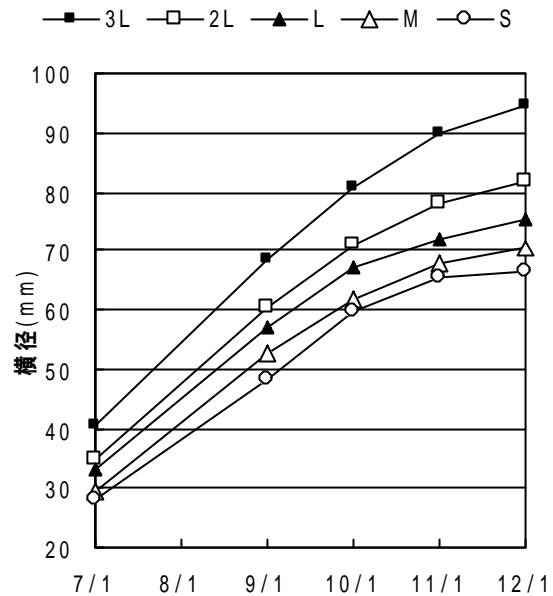


図2 はるみの果実横径の推移と収穫時果実階級の関係

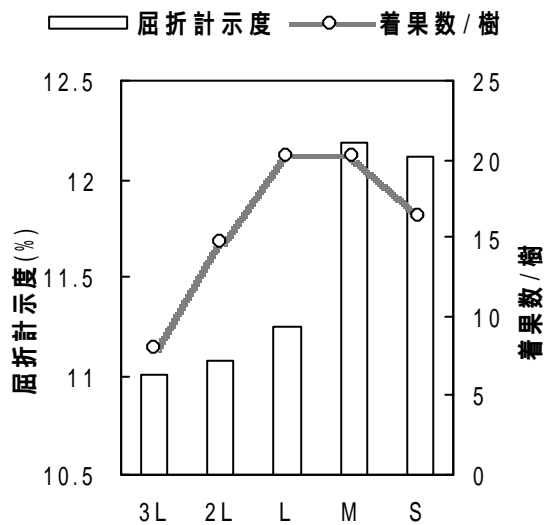


図3 はるみの果実階級毎の屈折計示度と樹当たりの着果数の関係

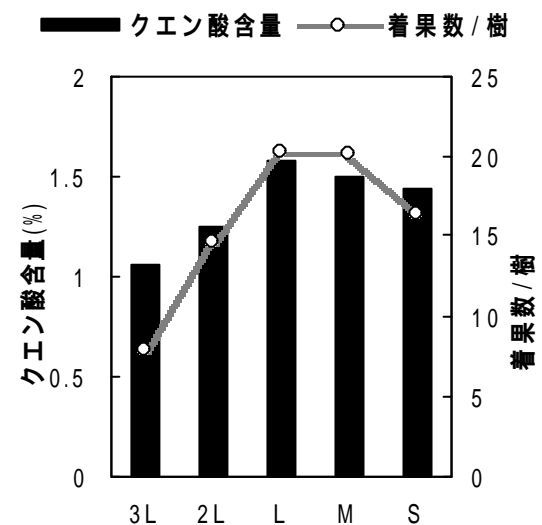


図4 はるみの果実階級毎のクエン酸含量と樹当たりの着果数の関係

[資料名]平成12年度試験研究成績書(カンキツ・キウイフルーツ)

[研究課題名]はるみの果実階級と果実肥大、品質の関係

[研究期間]平成12～16年度

[研究者担当名]真子正史、鈴木伸一、浅田真一